

基本情報

施設名	わおわお大倉山保育園
所在地	横浜市港北区大倉山5丁目7-2(分園)5-24-4
電話番号	045-549-6380
評価年度	平成30年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成30年11月1日～ 平成31年1月24日	全職員が4グループに分かれ、6人前後で一項目ずつ話し合いながら評価と反省を行った。各グループのリーダーと園長ですり合わせを行い、工夫点や不足点をまとめた。不足点については対策を考え、各グループで全職員に周知し実践していく。それらを基に、園長が自身の考察を入れながら内容をまとめた。
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成31年2月22日 平成31年2月26日	評価調査者2名が、2日間を通し、保育園内の視察、保育内容、園児の観察、書類確認および園長、職員との面接、ヒアリングにより評価を行いました。乳児、幼児の食事の観察を行い、保育環境、子どもの遊びの様子および延長保育の観察を実施しました。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成30年12月25日～ 平成31年1月18日	全家庭にアンケートの手紙を配付した。園についてのアンケートを記入し、直接ポストに投函していただくよう、園だよりや口頭で数回声を掛けた。
利用者本人調査	
(実施期間) 平成30年9月12日 平成30年9月13日	1歳～5歳児対象に1日の生活を通して観察を行い、園生活、食事、遊び等を場面観察から考察をまとめました。

第三者評価結果報告書

《総括》

対象事業所名	わおわお大倉山保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 わおわお福祉会
対象サービス	保育所
事業所住所等	横浜市港北区大倉山 5-7-2 (分園) 大倉山 5-24-4
設立年月日	平成 14 年 4 月 1 日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

《総合評価》

【わおわお大倉山保育園の立地・概要】

●わおわお大倉山保育園は、東急東横線の大倉山駅からエルム通りを歩いて7分程度のところにあります。大倉山は、洗練された街並みと緑豊かな環境の地で、昭和初期から宅地開発が進み、東横線沿線の上質な住宅街としての地位を築いてきた地域です。園舎北側には緑深い大倉山公園があり、この街の象徴ともいえるギリシャ神殿風の大倉山記念館や、春には紅白20種もの梅が美しさを誇る梅林があり、住民のリフレッシュゾーンとなっています。近くには太尾小学校、大綱中学校があり、園の子どもたちと交流を持っています。

●わおわお大倉山保育園は、運営主体は社会福祉法人わおわお福祉会（以後、法人という）です。法人は関連の総合コンサルティング株式会社大川と提携して保育事業と他の事業を展開し、保育事業として横浜と川崎に保育園7園を運営しています。わおわお大倉山保育園は、平成14年に横浜保育室として開園し、平成16年4月認可保育園に改組し、現在、定員76名、分園に0歳～2歳児（定員31名）、本園に3歳～5歳児（定員45名）に分かれて保育を実施しています。本園はマンションの1階に開設し、分園は独立した平屋建ての建物となっています。大倉山に開設するスーパーマーケットライフの条件の中に、医療、福祉の施設を併設するという旨に沿い、わおわお大倉山保育園の開設が実現しました。開設は平成14年4月1日で17年目を迎える地域に根付いた保育園です。

【わおわお大倉山保育園の方針】

●法人の経営理念として、「子どもの笑顔で世界をかえる」を謳い、保育理念に「ほめて・みとめて・はげまして」を掲げ、保育理念に沿い“やる気を育て、自分で考えて行動できる子どもを育てる”とした保育を目指しています。特に、重要視しているのは「子どもの笑顔で世界をかえる」、「自己肯定感を高め、意欲を高め、意欲を育て、自発的・主体的に考えて行動する子どもを育てる」、「子ども一人ひとりに愛情を持った保育」に力を入れています。さらに、園では、保育の理念・基本方針をわかりやすく理解を促せるよう、園のビジョンとして「子どもたちの目が輝く保育」を掲げています。園のビジョンを保育の目標とし、育みたい心と力は、「自己肯定感：そのままの自分が愛されていると感じ、自分を大切に思い、他者も大切に認める気持ち」、「主体性：他者と一緒に生きる中で、自分の考えを持ち、どうしたらいいか判断して行動しようとする力」、「非認知能力：豊かな経験の中で生まれる、自己コントロール力や忍耐力、協調性、探求力等」、「体力・運動能力：自分の体をコントロールし、健康の維持や意欲・気力等生きる力の基礎となる力」として保育活動に取り組んでいます。

《優れている点》

1. 【子どもたちの主体性を育む保育の推進】

社会福祉法人 わおわお福祉会では、系列7園の取り組みとして、1年間のテーマを決め、その「成果」の報告会として「研究発表会」を開催しています。1回目の研究発表会では、全体のテーマを「理念」として各園が取り組み、わおわお大倉山保育園では、基本理念の「ほめて みとめて はげまして」の『ほめる』について、子どもと保育士のかかわりを発表しました。今年は、「主体性を育む」ことをテーマに発表を行いました。「主体性を育む」については、保育士が「子どもの興味をいかに引き出し活動につなげられるかを考える」とことと理解し、その実践に取り組みました。事例では、2歳児に「クッキング保育をするよ」と伝えると、「クッキング保育でクッキーを作る」と子どもは思い、「和食だったのでがっかりした」という言葉・反応を受け止め、5歳児にサポートをお願いして2歳児と一緒にクッキー作りを実現し、2歳児が大喜びした等、事例の積み重ねから、1つ1つ子どもたちの主体性を育んで行く活動を1年間実施し、成果につなげました。今後も継続して主体性を育んでいきます。次のテーマとして、「子育て支援」に取り組み、園の取り組みの理解につなげるよう、また、今後の発表会には保護者も招きたいと考えています。

2. 【乳幼児の発達に必要な保育・教育の提供】

わおわお大倉山保育園の保育の特徴として、「知育」、「体育」、「英会話」、「絵画」、「食育」、「リズム遊び」を実施しています。「知育」についてはガウディアの保育理論を展開して学び、「体育」では体育指導者検定有資格者の保育士が指導を行い、「英会話」では外部のネイティブな講師が歌と遊びを通じて体を動かしながら英語のリズムや発音を覚え、英語の興味・関心を育てています。特に、表面的な違いを認め、身近な存在・共感へとつながる良い機会となっています。「絵画」については、子どもたちが様々な画材や素材に触れることで観察力、創造力、表現力を養い、「食育」活動では、毎日の食事経験に加え、近所のご厚意で畑を借用して野菜等の栽培、成長観察、調理を体験し、「食を育む力」の基礎を身に付けています。「リズム遊び」は、音楽を通じて身体的、感覚的、五感を育み、自由な表現力を育てています。6つの取り組みにより、子どもの成長・発達期に必要な心身共にバランスの優れた子どもの育成につなげています。これらの取り組みは、わおわお福祉会系列全園で展開しています。

3. 【生命の尊さと不思議さを知る保育の推進】

わおわお大倉山保育園では、借用している園の前の畑を利用し、野菜等の栽培を行い、成長を観察し、収穫した野菜で調理・食に関わることにより生命の尊さ、不思議さを子どもたちに知ってもらいたいと取り組んでいます。食育の一環として畑での栽培だけではなく、シイタケキットを活用したシイタケの栽培等を実施し、収穫したシイタケは調理してもらって食し、苦手意識の解消や、同様のキットを用いて自宅でもシイタケを育てる等、家庭での食育への広がりも見せています。シイタケは、全ての収穫後さらに1つ大きなシイタケが育ち、子どもたちと考え、飼育している「だんご虫」のエサにすることを試みると、だんご虫はシイタケを食べ、するとだんご虫の子どもが増え、観察から不思議へとつながったり、また、幼虫を飼育すると、大きなアゲハ蝶の孵化が見られた等、子どもたちは生命の尊さと不思議さを体感する機会を得、貴重な体験を提供しています。また、散歩で拾ってきたドングリをプランターに植えてみよう、と試みると、半年以上芽が出ないので諦めかけていたら今年の春、ドングリの芽が1本顔を出し、子どもたちは大喜びです。生命の尊さを子どもたちは体験を通して知ります。

《さらなる期待がされる点》

1. 【保育士のさらなる質の向上】

保育園にとって、保育士の力が全てです。子どもの育成には、保育士の質が問われます。わおわお大倉山保育園に訪問し、年齢別に本園、分園に分れた体制的な不便さをポジティブに工夫し、全保育士が努力している姿に敬意を表します。職員教育の基本は各個人のレベルアップだと思いますが、経験年数の差等によるレベル差の向上には一定の時間を要します。職員が互いに補完し合いながら良い保育を行っていくためには体制の整備と、業務の効率化が急務です。体制の整備では、現在は主任の配置がない体制での遂行ですが、中心となる職員に責任を持たせる、係を決めて係の責任者に権限を委譲する等、「責任体制の明確化」による業務のスムーズな運営が必要です。業務の効率化では、保育士の育成の時間が無い、ではなく、園長の言葉通り、「限られた時間の中で効率的な知識の伝達方法を考える」であり、ミーティング、会議、伝達ノートの作成及び工夫等を活用しながら短時間で効率的な伝達出来る体制を是非、検討していかれることを期待しております。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

第三者評価受審施設 わおわお大倉山保育園	
評価年度	平成 30 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

<評価領域>

I	利用者本人（子ども本人）の尊重	II	サービスの実施内容	III	地域支援機能
IV	開かれた運営	V	人材育成・援助技術の向上	VI	経営管理

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類 1 - 1	保育方針の共通理解と保育計画等の作成
評価	

評価の理由（コメント）

- 保育理念に「ほめて・みとめて・はげまして」を掲げ、保育理念に沿い“やる気を育て、自分で考えて行動できる子どもを育てる”とした保育を目指しています。特に、重要視しているのは「子どもの笑顔で世界をかえる」、「自己肯定感を高め、意欲を高め、意欲を育て、自発的・主体的に考えて行動する子どもを育てる」、「子ども一人ひとりに愛情を持った保育」としています。わおわお大倉山保育園の理念、基本方針は、利用者本人を尊重したものになっています。理念や基本方針は「職員マニュアル」に記載し、全職員（パート職員も含む）に配付し、入職時および職員会議で都度、説明を行い、常に意識しながら保育に当たっています。理念や基本方針は玄関の掲示板にも掲示し、保護者、来園者へ理解を促し、園目標、クラス目標は入園説明会、懇談会で周知しています。
- 全体的な計画には園の理念、保育目標や園ビジョン等の基本方針を明記し、「養護」と「教育」のねらいを定め、子どもの年齢や発達に応じて生命の保持、情緒の安定、健康、人間関係等についての細かな項目でまとめ、子どもの最善の利益を考慮した内容となっています。基本方針は、教育熱心な保護者が多いこと等、地域の実態・環境を考慮して作成しています。全体的な計画は、職員の評価・反省を基に、改訂された新保育所保育指針の内容も取り入れ、園長が原案を作成し、全職員に諮った上で策定しています。全体的な計画は冊子にして入園説明会、保護者会で配付して説明しています。

●指導計画は、「指導計画作成会議」を設け、全体的な計画を確認しながら実施し、計画策定に当たっては子どもの姿に即した計画を作成するよう方法や内容の見直しを図っています。指導計画は担任以外で保育に入る職員にも配付し、子ども一人ひとりについて丁寧に伝えています。指導計画（カリキュラム）は、年間指導計画、月間指導計画、週案、日案を作成しています。週案に沿って保育を行い、日常の中で全体的な計画が生かされるような保育を心がけ、保育に主体的な学び、対話的な学び、学びのアクティブラーニングを取り入れています。

評価分類 1 - 2	子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施
評価	

評価の理由（コメント）

●入園説明会前までに必要書類（児童表、健康台帳、児童連絡票、入園までの生活状況）を保護者に事前に準備してもらい、入園説明会および面談には、親子で参加してもらい、入園説明会の後に保護者からの提出書類を基に面接を行っています。子どもの様子も説明会時に観察し、アレルギーや体調、病歴等を確認しています。アレルギーのある子どもは、生活管理指導票に記入してもらい、配慮の必要な子ども（障害、アレルギー等も含む）の情報については職員間で共有し、入園後の保育に生かしています。面談内容や書類は個人ファイルに管理し、鍵付きの書棚に格納しています。

●新入園児受け入れに際して短縮保育（慣らし保育）を実施し、0歳～2歳児は5日間、3歳～5歳児は2日間を基本とし、0歳～2歳児については生活面の主担当保育士をしばらく定め、子どもが安心して過ごせるよう配慮しています。保護者には、必ず「行ってきます」と言って出かけてもらい、帰ってきたら子どもをしっかり抱きしめてあげることをお願いしています。保護者が“必ず帰ってくる”と子どもが信じられることが大切と考えています。保護者へは、乳児、幼児クラスも連絡ノートで日々の子どもの様子を伝達し、0歳～2歳児は複写式の連絡ノートを採用し、保護者と密に連携を図り、送迎時には口頭でも伝えています。3歳～5歳児は必要に応じて連絡ノートを活用し、クラスボードで子どもの様子を伝え、丁寧な連絡を心がけています。また、連絡ノートに就寝時間、起床時間、体温、朝食摂取状況、排便等を記入してもらっています。在園児への配慮では、0歳～2歳は保育士1名ができるだけ持ち上がり、新入園児の受け入れ時期には保育士の人数を多めに配置し、新入園児に寄り添い、信頼関係の構築に努めています。

●1歳児以上3歳未満児の保育については、子ども一人ひとりの欲求を表情や仕草から汲み取り、優しく応答的に関わり、子どもの気持ちが満たされるよう努めています。また、安全で清潔な環境を整え、育ちや発達に応じて体を動かしたり、興味・関心を持てるよう環境作りに工夫しています。食事、睡眠、清潔を丁寧に援助し、楽しく心地よく過ごせるよう環境に配慮しています。

● 3歳以上の保育では、保育を通して自然の美しさ、不思議さ、力強さ等、様々な変化の多様さに気付けるよう環境作りに努め、発見や驚きを楽しみにしながら関わり、知ろうとしたり遊びに取り入れたりする力を育んでいます。また、園生活の中で物の数量や性質、文字、時間、仕組み等に興味・関心が持てるよう工夫しながら遊びに展開しています。身近な動物や植物に親しみを持って関わり、命の尊さを覚え、大切にしようとする気持ちを培っています。さらに、季節の行事や社会の営みに触れ、大倉山や横浜市、自分の暮らしている地域や別の地域、国という概念に触れ、日本と他国があることを知り、文化や伝統に親しめるよう支援しています。異年齢保育では、異年齢合同での活動を多く取り入れ、年上の子どもへの憧れや思いやりの心を育んでいます。

評価分類 1 - 3	快適な施設環境の確保
評価	

評価の理由（コメント）

● 施設環境については、毎日、園内外の清掃をパート職員も含めて担当表にて掃除を実施し、保育士が清掃チェック表に沿って行い、園内を清潔に保っています。各保育室は空気清浄機を設置し、湿度は50～60%に保ち、子どもと一緒に温度・湿度を確認して、快適な環境整備に努めています。音量については、保育士や子どもの声が騒音にならないよう心がけ、他クラスの妨げにならないように留意しています。

● 沐浴設備、温水シャワーは、分園（0歳～2歳児）に設備し、ベビーバスを多用して体の清潔を保っています。本園（3歳～5歳児）にも温水シャワーを備え、汗・汚れの処理等を行い、体の清潔を保っています。沐浴設備、温水シャワーは使用后、マニュアルに沿って清掃、消毒（次亜塩素酸ナトリウム）を実施し、定期的に設備の管理を行っています。子どもがシャワーを使用した場合は連絡ノートに記入し、保護者に伝えています。

● 乳児は、分園で保育を行っています。0歳児は個室を確保し、1歳～2歳児は大きな部屋をパーテーションで区切り小集団保育を実施し、必要に応じてパーテーションを開放して大きな部屋として活用しています。高年齢児（幼児）は本園で保育を実施し、1つの保育室と大きな部屋をパーテーションで区切った2つの保育室で保育を行い、小集団で落ち着いて過ごせるようコーナー作りに工夫しています。寝食は各保育室で確保し、大きな部屋では2クラスが一緒に給食を取っています。本園に2歳児が遊びに行く機会を設け、異年齢で交流する場を設けています。

評価分類 1 - 4	一人ひとりの子どもに個別に対応する努力
評価	

評価の理由（コメント）

- 2歳児クラスまでは個別指導計画を立て、3歳児以上の特に配慮が必要な子どもも各クラスで個別指導計画を作成し、職員間で情報を共有し、定期的に見直しと共に子ども一人ひとりの発達状況に合わせて都度柔軟に対応するようにしています。気になる子どもについては年間指導計画の備考欄に記入して見守りを行い、会議等で話し合い、見直しを図っています。保護者とは日々の保育状況を伝え、連携を図りながら共有し、必要に応じて面談を行い、意見や要望を聞いています。個別指導計画の見直しにより重要な部分については保護者に説明して同意を得ています。
- 統一ある書式で子どもに関する基本的な情報、家庭の個別状況等、重要な申し送り事項等の一人ひとりの児童記録は全職員が目を通してから個別にファイルしています。個人ファイルは職員が閲覧することができるようにし、鍵のかかる書庫に保管しています。各クラスで「引き継ぎノート」を設け、毎日の保育状況やケガ等を記載し、進級時、交代する保育士に引き継いでいます。

評価分類 1 - 5	保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み
評価	

評価の理由（コメント）

- 配慮を要する子どもについては、職員で共通理解の下、受け入れを行い、ケースカンファレンスで話し合い、情報を共有しています。個別ケースでは定期的に保護者と面談を行い、意見、要望は計画に反映させるようにしています。職員はOJTチューター制度や外部研修で学び、得た最新情報は伝達研修で報告し、職員間で共有を図り、保育に生かしています。
- 横浜市総合リハビリテーションセンターの巡回訪問（年2回）や医療機関、専門機関と連携し、指導・助言を得られる態勢を整え、助言等を保育に生かしています。また、横浜市総合リハビリテーションセンターへ職員が同行して保護者と共に話を聞く機会を設けています。障害児保育については、マニュアルに沿って勉強会を行い、他児と共に育ち合う統合保育を基調に保育に取り組み、子どもの思い・保護者の思いを尊重し、クラスの一員として伸び伸びと生活できるよう配慮しています。障害児保育のための環境整備では、分園は多機能トイレを備え、バリアフリーを考慮して設計されています。本園は、トイレの段差や手すりの設備が未整備で、車椅子利用はできない環境であり、特性に応じて配慮が望まれます。

●虐待については、「わおわお職員マニュアル」を備え、虐待の定義について読み合わせを行い、早期発見と適切な対応を心がけ、発見時における「なすべき行動と対応法」を学んでいます。登園時の視診、着脱時に全身の健康状態のチェックを行い、子どもの態度、顔色、表情に注意をして健診簿に記入する等、早期発見に努めています。子ども、保護者とコミュニケーションを図り、面談を行うよう配慮し、虐待の予防につなげています。虐待が明確になった場合は、港北区役所の保健師、児童相談所等と連絡が取れる態勢を整えています。保護者へは虐待の通報先や相談窓口の連絡先、厚生労働省のポスターを掲示し、相談できることを知らせています。

●食物アレルギー疾患のある子どもについては、自己申告により医師の除去食指示書の提出を受け、生活管理指導票を基に保護者と栄養士、看護師、保育士で面談を行い、除去内容を確認しています。毎月、除去献立表を基に除去内容を説明し、確認し合っています。職員は、年度初めに「アレルギー対応マニュアル」の読み合わせを行い、看護師による園内研修を実施して職員間で知識を深めています。給食では、食物アレルギー対応手順に従い、専用トレイ、食札を使用し、器にラップをして除去内容を記載し、個別配膳と複数職員で声だし確認をして誤配膳、誤食がないよう徹底しています。

●文化が異なる外国籍の子どもへの対応では、外国文化や生活習慣を尊重し、日本の習慣を強制することが無いよう全職員で配慮事項を確認しています。文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め、尊重しています。帰国子女の場合には、これまでの生活習慣を考慮した対応に配慮し、在園児には外国ではスプーンで食事をする生活が普通の国もあることを伝えています。幼児クラスでは世界を意識し、地図や国旗、食文化への興味を深められる環境作りをしています。意思疎通が難しい保護者の場合は、絵カード、図、写真、通訳ボランティアを活用するなど工夫を行い、必要に応じて連絡ノートカタカナ、ローマ字で表記する等、意思疎通が図れるよう配慮しています。法人本部には外国語（英語、中国語等）に対応できる職員が在籍し、対応が可能です。

評価分類 1 - 6	苦情解決体制
評価	

評価の理由（コメント）

●保護者からの苦情などに関しては、重要事項説明書に苦情・相談の窓口担当者を明示し、面談、文書等の方法により相談・意見を受け付けていることを知らせています。第三者委員の連絡先、氏名も入園のしおりに明記し、入園説明会で苦情解決について説明を行い、玄関に掲示して苦情に対する対応姿勢と手続方法を示しています。要望や意見等を聞く機会としては、送迎時の保護者との会話、連絡ノート、意見箱、クラス懇談会、個人面談（年3回）、行事後のアンケート等を実施しています。また、園長は町内会の役員会に出席し、近隣とのコミュニケーションに努めています。

●苦情解決マニュアルを作成し、苦情受付担当者および苦情解決責任者は園長と定め、重要事項説明書にも記載しています。苦情・要望があった場合は、マニュアルに基づいて対応し、速やかな対応に努め、ミーティング等で改善策・対応方法を検討し、職員に周知しています。保護者に対しては、丁寧に対応し、改善策を具体的に説明しています。第三者委員や法人本部を交えて対応できる体制を整備し、第三者委員とは毎月、連絡を取っています。

評価領域Ⅱ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅱ－1

保育内容 [遊び]

評価



評価の理由（コメント）

●子どもたちが自発的に活動できるよう、玩具は子どもが自由に取り出して遊べる手の届く高さに収納棚を設置し、玩具係を中心に、発達に相応しい玩具の取り揃えと、興味や季節に合わせた玩具の入れ替え、補修等を行っています。保育室には、敷物や衝立等で遊びに応じてコーナーを設置し、子どもの自由な発想で遊び込める時間を十分に設けています。また、スペースの有効活用や時間の確保について職員間で話し合い、改善に努めています。

●一斉活動に偏らない保育を心がけ、子ども一人ひとりが興味・関心を持つ遊びを行えるよう、職員間で連携を図り、子どもとじっくりと関わるようにしています。また、子どもの興味に合わせた環境設定を行い、遊びを展開できるような援助をしています。絵本からごっこ遊びに展開し、生活発表会で披露した例では、0歳～1歳児は保育者と手遊びを一緒に行い、2歳児は大好きな絵本の大きなカブのお話を、3歳は大好きな絵本の野良猫軍団のお話を披露し、4歳児は子どもたちが考えたパンダ組の救出大作戦を創作し、5歳児は職員と一緒に考えた「大きくなるということはどういうことか」等に取り組み、子どもの自主性、自発性を大切に保育を進めています。5歳児は、近隣の保育園と太尾南公園でドッチボール交流会を行っており、今回は「どうしたら勝てるか」をみんなで考えて臨み、結果、これまで勝てなかったのが今回は優勝に導きました。

●わおわお大倉山保育園では、子どもが野菜の栽培や調理、飼育に関わることで生命の尊さと不思議さを知らせています。栽培では、菜園や保育室内外で野菜・ハーブ・キノコ等や、アサガオ・チューリップ等を栽培しています。乳児では、園の畑を見に行き、栽培している野菜の成長を知らせています。調理実習は0歳児から体験し、1、2歳児はふりかけ作り等を行っています。5歳児は、畑で採れた野菜等を保育士が指導しながら包丁を使った調理を体験し、みんなで食しました。飼育では、ダンゴムシやメダカ、カブトムシ、アリ等身近な動物を育て、自然の生態系に触れ、探究心や命を知る機会にしています。また、近隣の公園でおたまじゃくしを見たり、虫捕りを行い、捕った昆虫は放して命の尊さを知る機会にしています。散歩先で採取したどんぐりや松ぼっくり等、「散歩の宝物」として保護者に見せた後、画材に活用し

ています。地域との交流では、園外活動に出かけた折に散歩で行き交う地域の方々と挨拶を交わしています。

●リズム遊びや体操、歌、描画や粘土等制作の時間等を通して、子どもたちはのびのびと表現を楽しんでいます。乳児の制作活動では、数種類の素材を用意し、自分の好きな物を選んで取り組めるよう配慮しています。幼児では各自の自由画帳、道具箱を保有し、クレヨンやハサミ（管理の上）等は年齢、発達に合わせて使い、子どもの創造力を大切にして様々な素材（空き箱等）を用意し、子どもが自由に表現活動ができるよう支援しています。

●異年齢保育では、異年齢児での交流や合同の活動時間を設け、2歳児クラスは次年度の本園での生活を踏まえ、本園の3歳～5歳児と交流を深め、生活体験発表会でも交流をしています。3歳～5歳児では、行事や毎月の歌、リズム遊び、散歩、食育等、様々な活動を計画的に異年齢で実施しています。子ども同士のケンカについては、危険のないよう見守り、子ども同士で解決できるよう援助を行い、場所を変えて冷静に話し合えるよう対応しています。職員は、自己の保育や互いの保育について評価し、向上を目指しています。

●健康増進の工夫では、園の周囲にはたくさんの公園が点在し、年齢や目的（どんぐり拾い、川で遊ぶ、運動等）に応じて戸外活動、散歩の行き先を選択して出かけ、体力作りを行っています。また、子どもの興味関心に合わせて固定遊具遊びや探索、ドッジボール、鬼ごっこ等、体を動かす遊びを取り入れ、戸外では斜面を登ったり、鉄棒等で体力作りを行っています。乳児では、マット等を使って山やトンネルを作って遊んでいます。紫外線対策では、ネックガード付きの帽子を被り、夏の水遊びには園庭にサンシェードやパラソル等を設置しています。子どもの成育歴や既往歴を把握し、体調に応じて無理のないよう、室内で静かに遊べるようにしています。

評価分類Ⅱ－1	保育内容 [生活]
評価	

評価の理由（コメント）

●食事を豊かに楽しむ工夫として、季節ごとに野菜を栽培して収穫し、食材に触れ、とうもろこしやそらまめなどの皮むきや包丁を使って食材を切る等、1歳児から調理体験を実施しています。保育士は子どもと会話を楽しみながら一緒に食事を行い、食べる意欲を引き出せるよう一人ひとりに合った声かけを心がけています。0歳児は特定の保育士が担当し、抱っこをして話かけながら授乳し、離乳食では個々のペースを見守りながら咀嚼の大切さを知らせています。また、食べ物の絵本や、ままごとやお店屋さんごっこで食べ物に親しむ機会を作り、食を楽しめるよう工夫しています。

●食育計画を立て、幼児クラスでは、食材を栄養素で分けて今日の献立の理解を促し、食材への関心が深まるよう工夫しています。毎月、郷土料理を献立に取り入れ、行事ではテーブルクロスをかけて特別感を演出し、摘んできた花を活け、バイキング形式にして楽しみ、かわいい名札を飾る等、食事が楽しめる雰囲気作りをしています。食器については、温かみのある磁器食器、木製椀を採用して日本の家庭的な食卓を感じられるよう配慮し、発達に応じて食具を数種揃え、手の大きさに応じた箸を保護者に用意していただいています。定期的（3年～5年）に食器は交換しています。

●入園時の生活歴により子ども一人ひとりの好き嫌いを把握し、苦手な食材の盛り付けは量を調整し、苦味がある野菜（ピーマン等）は、湯通しして食べやすく工夫し、ケチャップ等の調味料の別盛対応や、刻み・形状は個別に提供する等、配慮しています。調理師は子どもと一緒に食事を取り、喫食状況を把握し、子どもから食材について質問を受ける等、接する機会を持っています。毎月の給食会議では、残食状況を確認し、子どもの人気献立や苦手な献立、味付け、形状等を話し合い、改善につなげています。特に、0歳児の食べ具合は定期的に確認し、調理に生かしています。

●給食は、本園では玄関に当日の給食やおやつをデジタルで提示し、保護者に伝えています。毎月、給食だよりを発行し、季節の料理や郷土料理のレシピを掲載し、家庭の食育につなげています。誕生会に給食の試食会を設け、子どもと一緒に給食を食し、園の味付け、子どもの食べ方等を実際に見てもらい給食への理解、関心が持てるようにしています。新入園児に対しては、離乳食、未満児食の献立例や食事量をサンプルで提示しています。

●午睡については、室内を適度な暗さに調整し、優しい音楽を流して午睡中の環境作りをしています。乳児は、保育士が傍について子守歌を唄う等、安心して眠りにつけるよう配慮しています。眠れない子どもや、早目に目覚めた子どもは、静かに過ごすよう促し、他児の眠りを妨げないよう環境（スペース、人員）の整備に努めています。一時保育では、眠れない子どもや泣いてしまう子どもには、抱っこやおんぶ、外に出る等、気分を変えるよう配慮しています。SIDSの予防では、乳児は5分～10分おきにブレスチェックを行い、記録を取っています。

●トイレトレーニングでは、個人差があることを十分に理解し、トイレ内のトレーニング表により職員間で把握し、保護者と連携を密にしながら進めています。尿意の有無を伝えられるようになった子どもには、排泄意欲を大切に、強制や無理強いほしくないよう心がけてトイレ誘導を行っています。排泄に失敗した際は、子どもの羞恥心に配慮するよう心がけ、シャワーを活用して気持ち良く過ごせるようにしています。お散歩の前等にはトイレに行くよう促しています。

●延長保育、短時間、標準時間での子どもの状態に応じ、ゆったりと寛いで過ごすことができるよう、優しく温かい関わりを心がけ、パーテーション等を活用してコーナーを作り、環境を整えています。延長保育は乳児フロアで行い、幼児が楽しく過ごせるよう玩具を整備しています。子どもの状態は毎日のミーティング時に確認し、引き継ぎを丁寧に行っています。延長保育での補食夕食に関しては、進みが良くない子どもは保護者と相談し、意向を踏まえて個別で対応しています。

評価分類Ⅱ－２	安全管理 [健康管理]
評価	

評価の理由（コメント）

●健康管理は、「健康管理マニュアル」を整備し、職員に周知しています。健康台帳、身体測定結果、健康診断・歯科健診結果、予防接種の接種状況や既往症歴等の保護者記入の健康カード等で子どもの健康状態を把握しています。日中の子どもの健康状態は健診簿に記入し、保護者にも伝達しています。歯磨き指導については、歯科医のアドバイスを基に食後は保育士が仕上げを行い、口腔状態も確認しています。歯ブラシは十分配慮をして管理を行い、個々の歯ブラシが摩耗してきたら交換を保護者に促しています。定期的に嘱託医による健康診断・歯科健診を実施し、子ども一人ひとりの健康台帳、健康カードに記録し、保護者と共有しています。嘱託医とは定期健診で連携を図り、関係作りに努めています。手洗い・うがいについては、洗面所に手順を示し、絵本や紙芝居でも大切さを伝えると共に、看護師による手洗い指導・うがい指導を年齢に合わせて行っています。

●感染症等について、「感染症マニュアル」を備え、保護者には、入園時に入園案内に登園停止基準、感染症の情報の提供および説明を行い、与薬対応や登園許可証明書の要否について知らせています。感染症が発生した場合は、園内での感染症蔓延に注意し、職員に対して必要な情報をミーティング等で周知しています。保育中に発症した場合は、分園・本園の状況を速やかに両園に掲示し、保護者に情報を提供しています。また、保健だよりで前月の感染状況を報告しています。感染症の情報は、看護師から受け、職員間で共有し、保護者にも掲示で知らせています。

評価分類Ⅱ－２	健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]
評価	

評価の理由（コメント）

●衛生管理に関するマニュアルを整備し、マニュアルに沿って保育室、給食室、園内各所の衛生管理を徹底し、玩具の消毒を実施しています。特に、感染症のマニュアルについては係を設け、担当者が嘔吐処理等、最新情報により見直しを図り、職員会議で報告し、全職員で共通認識を図っています。マニュアルには手洗い方法、下痢・嘔吐処理方法について示しています。清掃は、保育室、トイレ、共用部の清掃を行い、清掃、消毒の実施後は記録し、適切に衛生管理が成されています。職員は、定期的に研修を行い、確認事項を再確認し、実行しています。ノロウイルス対策では嘔吐処理セットをクラスに備え、職員は使い方を習得しています。



評価の理由（コメント）

●安全管理に関するマニュアルを備え、特に、子どもの保育中の安全管理について作成し、子どもの安全確保に特化して振り返りを行い、子どもの安全について話し合う機会を設けています。保育室内は、戸棚にストッパーを取り付け、備品等の落下、家具転倒防止を講じ、園内の点検、修繕を実施しています。安全委員会より睡眠中の事故についての啓発や、水遊び・プール遊び前の市や区からの注意喚起文書等を話し合い、職員に重大事故への注意を促しています。毎月、様々な災害を想定した避難訓練を実施し、地域への避難や町内会合同の訓練にも職員が参加し、連携を図っています。保護者に対しては、NTT171 や連絡網、保護者一斉メールを実施し、一斉メールではテストメールも実施しています。避難場所は第1次では園の隣のスーパーマーケット敷地内であり、地域の避難場所は太尾小学校であり、園の運動会を行っている場所柄、保護者も場所は熟知しています。さらに、緊急時に備え、園内の避難経路図や緊急時の職員体制を整え、事故や災害時に的確に対応できるようにしています。

●事故やケガにおける対応について、保護者の連絡先を把握し、救急・医療機関の一覧表を備え、緊急時に対応できるようにしています。園内で事故やケガが発生した場合は、ミーティング等で原因を確認し「事故・ケガ報告書」に記録し、大きな事故については事故報告書に記録し、対応策を検討して共有を図り、再発防止に努めています。子どもの事故やケガは、ケガの部位、軽重にかかわらず記録を残し、保護者に連絡および説明を行い、速やかな対応に努めています。

●外部からの侵入に対して、不審者対応マニュアルを用意し、年2回の防犯訓練を行っています。門は常に施錠し、保護者や職員のみ IC カードを保有して開錠するシステムとし、IC カード不携帯の場合には身分を証明する提示を求めています。不審者情報は、港北区役所や小学校から情報を入手しています。園では、不審者を園内に知らせる赤色灯を設置して対応策を講じています。



評価の理由（コメント）

- 子どもの人権については「わおわお職員マニュアル」に明記し、保育者としての心構え、子どもとの接し方、言葉遣いについて記載され、職員間で事例ごとに読み合わせを行っています。また、保育基準の徹底を図り、保育士倫理綱領を全職員が保有し、勉強会を実施して研鑽を図っています。職員は、叱り方・呼び方等に威圧的な言葉遣いや、強制等を行わないよう心がけ、子どもの目線に合わせて穏やかに話すように努めています。職員は、子どもの人権を尊重し、職員間で保育を評価し合い、子どもの対応や働きかけについて話し合い、保育を客観的に見られるよう保育に当たっています。園長は、職員一人ひとりと面談を行い、保育を振り返り、子どもの気持ちに寄り添う保育であるよう伝えていきます。
- 他児の視線を意識せずに過ごせる場所として、保育室に衝立を置いて1人で過ごせる空間を確保しています。子どもと1対1で話し合う必要が生じた場合は、本園では「おはなしの部屋」で行い、分園は事務室を活用しています。排泄時は、乳児はパーテーションを活用し、幼児はトイレのカーテンを閉めるよう配慮し、排泄に失敗した際は多機能トイレ内やトイレ内のロールカーテンで目隠しをする等、子どもの羞恥心に配慮しています。
- 個人情報の取り扱いや守秘義務については、入職時に「秘密保持に関する誓約書」を提出し、秘密保持を徹底しています。ボランティアや実習生には、事前にオリエンテーションで個人情報の守秘義務について話し、誓約書を交わしています。保護者には、入園案内に個人情報取り扱いについて記載し、入園時に個人情報の守秘義務について説明を行い、「緊急連絡網の作成並びに配付に関してのお願い」、「園児の写真・映像等の承諾のお願い」を配付し、了承の押印を得ています。また、個人情報の入った書類等は所定の場所に保管し、閲覧場所を定めて管理しています。
- 性差に関する配慮では、遊びや行事の役割、持ち物の区別、順番、グループ分けや整列も性別で区分けすることはせず、子どもの好きな色、好み、望むものを尊重しています。子どもや保護者に対して、固定的に捉えた話し方や表現をしないように心得、カリキュラム会議等で子どもへの無意識な言葉かけについて振り返り、共通認識を図る体制を整えています。



評価の理由（コメント）

- 基本理念は入園案内に明記し、毎月の園だよりの見出しにも基本理念を掲載して周知しています。園長は、年度初めの保護者会・懇談会で、基本理念に沿った保育を実践することを宣言し、年度末の保護者会・懇談会では1年の振り返りを伝えています。園では、「ほめて・みとめて・はげまして」の理念に沿って子どもの主張を大切にし、子どもと向き合った保育を実施しています。行事後には保護者にアンケートを実施し、意見や要望から行事のねらい、基本理念や方針等が理解されているかを確認し、園運営に生かしています。保護者からは、基本理念や方針についてわかりやすいと評価を受け、今回の第三者評価の保護者アンケートでも保護者の9割程度が賛同できると評価しています。
- クラス懇談会は年2回開催し、園生活や遊びの場面における子どもの育ちを伝え、定期的な個人面談は年3回実施し、双方の「思い」の共有を図り、面談記録に記録しています。また、保護者の希望に柔軟に対応し、必要に応じて園から声をかけて面談を行っています。個別相談・面談については、分園は0歳児の保育室、本園は5歳児の保育室を活用して行い、入室を制限してプライバシーを確保できるよう配慮しています。相談を受けた場合は担任が対応し、相談内容は園長に報告および助言を得、必要に応じて園長、リーダーが同席し、相談内容は記録を行い、内容について職員間で共有しています。
- 園生活に関する情報は、毎月、園だより、保健だより、給食だより、クラスだよりを発行し、今後の予定・行事や保育の様子を知らせています。子どもの様子や活動内容は乳児では連絡ノートでその日の様子を伝え、幼児はクラスボードで伝え、保護者と子どもの成長を共有しています。また、毎日、担任からクラスの様子を伝えています。行事後は活動や子どもの様子を写真に撮り、園内やネット等で掲示して子どもの表情等、わかりやすく伝えています。
- 保護者の保育参加については毎月、お誕生会で行い、保育や子どもの様子を知る機会としています。当月に参加できない保護者には別月で参加を案内しています。年度末に次年度の年間行事予定表を配付し、保護者が予定を立てやすいように配慮しています。
- 園では保護者会があり、役員2名を選出してもらい、卒園児に記念品を贈ることを主な活動としています。活動の会計事務では保育園の場所を提供しています。保護者会とは連携を図り、コミュニケーションを取り、円滑な園運営につなげています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

評価



評価の理由（コメント）

● 地域の子育て支援では、町内会会議（地域まちづくり運営協議会）に毎月参加し、地域の行事への参加を通して保育園への要望を聞く機会を得ています。社会福祉協議会主催の地域支援事業「わくわく子育て広場」に参加し、園長は役員（平成30年度は実行委員長）として、事務局となって積極的に活動し、地域の子育て家庭に遊びの支援も行い、地域に向けた子育て支援に尽力しています。「わくわく子育て広場」の案内を本園、分園の掲示板に掲載し、町内会の回覧板でも告知しています。また、地域の保護者や子ども等に向けて子育てや保育に関する講習・研修会を提供しています。

● 地域の子育て支援ニーズは、一時保育、交流保育、園庭開放、おむつ替え等のベビーステーション、育児相談等の利用者を通じて把握しています。一時保育や子育て相談の参加後にはアンケートを実施し、感想や意見、ニーズを把握しています。園長は、港北区の園長会議に参加し、子育て支援や地域の情報およびニーズを把握し、ニーズ等について職員会議で話し合い、子育て支援事業に生かしています。

評価分類Ⅲ－2 保育園の専門性を生かした相談機能

評価



評価の理由（コメント）

● 港北区の子育て情報サイト、広報よこはま港北区版等に掲載して情報提供しています。相談事業については港北区の広報誌や、港北区のホームページに子育て相談の案内、交流保育の受け入れ、園の紹介を掲載し、育児相談に応じる旨を発信しています。また、子育て支援事業の利用者や園見学者にも園の情報を提供し、チラシを作成して掲示板で告知する等、情報を提供しています。

● 園長は、各種連絡会に参加し、入手した情報は職員に周知しています。関係機関・団体等の連絡先リストを作成して事務室にファイルし、職員間で共有しています。関係機関（港北区こども家庭支援課・港北区役所保健センターの保健師・近隣小学校・横浜市総合リハビリテーションセンター・児童相談所・警察・消防署等）との担当は園長とし、連携を図っています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

評価



評価の理由（コメント）

●地域への園の理解促進のための取り組みとして、町内会の地域まちづくり運営協議会に参加し、地域イベントの梅祭り等に参加し、園隣のスーパーを拠点とした地域防災訓練には職員が参加し、太尾小学校の入学式に招待を受けて出席する等、地域行事に積極的に参加しています。また、畑で子どもたちが育てた野菜を近隣に配り、大変喜んでもらっています。職業体験の受け入れでは大綱中学校の中学生を受け入れ、小学校への受け入れについては打ち合わせを行い、交流を持っています。小学校とは、年長児が太尾小学校を訪問して交流を図り、小学校の体育館を運動会で借用したり、小学校（避難場所）への避難訓練を行う等、連携を図っています。散歩では、行き交う地域の方に積極的に挨拶を行い、年長児は地域のゴミ拾いを行う等、地域と積極的に交流を行っています。

●子どもと地域との交流では、毎日の散歩やお泊り保育時の買い物で地域の商店街を利用し、近隣の方と日常的に交流しています。地域の祭りに4歳、5歳児が参加しています。幼保小と密に連携し、秋冬に近隣の保育園とドッチボール大会を開催し、2歳児、5歳児は近隣園との交流会を定期的に行い、年長児の就学を見据えた有意義な取り組みとなっています。5歳児クラスは、地域の相撲大会に保育園を通して申し込み、参加して地域の子どもたちと交流しています。地域の行事は、園内に掲示して参加を促しています。地域の公共施設では図書館（菊名の図書館）を利用し、紙芝居や絵本を借りてきて子どもたちに読み聞かせを行っています。近隣の自然豊かな大倉山記念公園は散歩コースの1つであり、地域の恩恵に触れています。

評価分類Ⅳ－2 保育所における福祉サービス内容等に関する情報提供

評価



評価の理由（コメント）

●園の保育内容・保育方針等の情報提供は、港北区のホームページ、港北区の子育て支援情報サービスのホームページやパンフレット、地域子育て支援拠点、横浜市の「ヨコハマはびねすぽっと」や入園のための情報誌「びーのびーの」にも情報を掲載しています。地域のイベントでは園のパネル紹介やパンフレットを設置して情報を発信しています。園のホームページでは定期的に園の様子を更新して掲載しています。

●利用希望者からの電話問い合わせ等については、適切に丁寧に対応し、見学を案内しています。園見学は基本的に毎週水曜日に受け入れ、保護者の希望によって柔軟に対応しています。園見学説明用のファイルを作成し、手順に沿って説明を行い、パンフレットを配付しています。園見学者から多い質問事項は、先に説明をして見学者の安心につなげています。

評価分類Ⅳ－3	ボランティア・実習の受け入れ
評価	

評価の理由（コメント）

●ボランティア受け入れのマニュアルを備え、マニュアルに沿い事前オリエンテーションで基本方針・守秘義務・人権・安全・衛生面について説明し、理解を促しています。中学生の職業体験や、園の畑の世話を有償ボランティアを受け入れています。有償ボランティアについては、子どもや園の要望を汲み、大根やジャガイモ等の栽培に協力してもらっています。ボランティアとの関わり合いから普段見られない子どもの姿が見られるケースもあります。また、就業希望者が半日体験する等、法人本部で予定しています。さらに、災害時にはボランティアを受け入れる体制を整えるよう準備があります。

●実習生の受け入れ担当は園長または主任が行い、実習生受け入れのマニュアルに沿って事前にオリエンテーションを行っています。実習生については、実習生受け入れマニュアルに沿って、事前オリエンテーションを実施し、園の方針、保育内容、心構え、子どもへの接し方、保護者の対応と守秘義務、留意事項を説明し、守秘義務に関して誓約書を交わしています。保護者に対しては園だより等で周知して理解を促しています。実習では、実習のねらいや希望に応じて適切な実習プログラムを作成し、効果的な実習に努め、クラス配置や実習計画を確認しています。実習最終日には園長、リーダー、担任を含めてディスカッションを設け、実習生の疑問や意見交換を図り、成果に結び付けています。

評価分類 V-1	職員の人材育成
評価	

評価の理由（コメント）

- 法人の人事考課システムは、職務基準（職位とその職務）、個人目標の自己研鑽計画（年4回見直し）、経験・年齢別の職員のあるべき姿（年4回の評価）、考課表（年3回本人、上司、法人本部で作成）で構成され、明文化しています。園の必要な人材の育成については、法人の人事考課システムに基づいて実施し、経験年数の浅い職員にはOJTやチューター制度を導入し、育成計画を策定して毎月、職員会議で育成度の確認をし、職員個々のスキルアップを図るよう取り組んでいます。
- 正規職員、非常勤職員の研修体制については、年間の研修計画に沿って全職員に必要な研修に参加を促し、職員会議で研修発表の機会を設け、全職員で知識を共有しています。外部研修については案内を回覧し、希望者は勤務時間の中で参加できるように配慮しています。研修では、個々の経験年数や職位、役割に応じて受講できるよう計画しています。また、自主研修の希望も聞き、公休、勤務ローテーション等を配慮して支援しています。研修報告書は回覧の上、職員会議の中で研修報告を行い、職員間で共有を図っています。園内研修については定期的に実施し、保育技術や倫理等の習得の研鑽を図っています。
- 非常勤職員も職員会議、クラス会議、園内研修に出来る限り参加を促し、共通理解と資質向上に努めるよう、職員全員で情報を共有するように努めています。非常勤職員の指導担当者はリーダーとし、係や行事担当に配置しながら園運営に参画し、スキルの向上を目指しています。非常勤職員も正規職員と同様に、園内研修への参加や面談を通してコミュニケーションを図りながら園の円滑な業務につなげています。

評価分類V-2**職員の技術の向上****評価****評価の理由（コメント）**

- 法人系列全園で経験年数別研修を実施し、福祉職員のキャリアパスについて話し合いを進め、自己評価のあり方等を学んでいます。系列園相互に随時、保育見学・保育参加ができる体制を構築し、学び合い、質の向上を図っています。また、年間を通して「保育研究」の会議を毎月行い、話し合う機会を設け、研鑽しています。港北区ネットワーク事業では近隣の園と協力体制が整い、実地研修を通して研鑽を図っています。経験年数別の職員のあるべき姿（自己評価基準）が明文化されており、定期的に自己評価を実施し、年度末に指導計画の評価と併せて園の自己評価を職員会議で行っています。保護者支援等については2ヶ月に1回、相談指導を受ける仕組みがあります。
- 職員は、年度初めに個々の自己研鑽計画（自己評価票）を振り返り・作成を実施しています。毎月のカリキュラム会議では、クラスの保育実践の振り返りと前月の月案の反省および評価を行い、職員間で話し合い、次月の計画につなげています。年度末の職員会議で園の課題を明確にし、次期の保育計画に反映させています。また、保育士の自己評価結果を踏まえて園の自己評価を行い、玄関に一定期間掲示して保護者に開示しています。

評価分類V-3**職員のモチベーションの維持****評価****評価の理由（コメント）**

- わおわお大倉山保育園では、職務基準、職務分担表を整備し、経験年数別の職員のあるべき姿（自己評価基準）を明文化しています。年度初めに自己評価表を個々で作成し、期ごとに振り返りを行っています。また、望ましい職員の姿が明確に示されたフォーマットを活用し、職員個人で評価を行うシステムを設けています。
- 園長は、定期的に職員一人ひとりと面談し、目標の達成度を確認し、メンタル面や満足度・要望等を把握し、次年度に向けての課題を確認してスキルアップにつなげています。本園、分園の各リーダーに保育内容や保護者への購入品販売等の権限を委譲し、責任は園長が取るよう明確にしています。

評価分類VI-1 経営における社会的責任

評価



評価の理由（コメント）

- 保育所、職員として守るべき法・規範・倫理等の周知は、「わおわお職員マニュアル」の中に記載した「職員倫理要項」の読み合わせを行い、全職員に周知しています。職員は、保育士倫理綱領、就業規則も遵守しています。園長は、コンプライアンスについて職員会議やミーティングで、他施設の事故・不祥事等の事例、不適切な事案を示し、不適切な対応がないよう喚起しています。経営、運営状況等の情報は、社会福祉法人であり、公開されています。
- 会社組織図や職務基準（職位とその職務）が整備され、保育園における事務、経理、取引等に関するルールや職務分掌と権限・責任を明確にし、職員に配付しています。定期的に理事会や評議委員会が実施されています。監査の指導事項は系列園や他園と共有し、改善に生かしています。
- ゴミ減量化、リサイクル・省エネ促進と緑化推進では、園内の節電を心がけ、季節に応じて温・湿度計に適正な目安を示して管理を実施しています。園、畑で季節野菜、花等を栽培し、教材にトイレットペーパーの芯や新聞紙の再利用を行い、省エネおよび緑化を促進しています。ゴミの減量化と分別に取り組み、公園のゴミ拾いを実践し、コピーの裏紙使用等の励行を図り、環境教育への取り組みを行っています。

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等

評価



評価の理由（コメント）

- 園の基本理念、保育目標等について職員マニュアルに明示し、全職員に配付しています。園長は、毎月のカリキュラム会議で基本理念、保育目標の読み合わせや話し合いを行い、職員が運営に主体的にかかわれるよう、心構えを積極的に伝え、保育に反映されるよう指導力を発揮しています。また、指導計画作成や日々の保育の様子から各職員の理解度を確認し、職員の面談等で考え、思いを共有できるようにしています。

●園長は、重要な意思決定にあたり、保護者会を開催し、保護者の意見を広く聞き、保護者懇談会を年度の初めと終わりに開催し、保護者とコミュニケーションを図っています。子どもの水筒持参の案件については、保護者会の場で意見を示し、時間をおいて保護者の意思を確認してから実行に移しています。法人の系列全園では、「マニュアル委員会」、「安全委員会」、「食育委員会」、「献立委員会」、「園長・主任リーダー会議」等を設定し、保育課題を検討し、解決に尽力しています。運営は、看護師、栄養士、保育士等の多職種連携の基、実施しています。

●主任クラスは、職務基準、自己評価票（個人目標の自己研鑽計画）、自己評価チェック表（経験年齢別の職員のあるべき姿）等を基に職員一人ひとりの勤務状況を確認しています。主任クラスは、職員の業務状況を把握し、職員個々の精神面、体調等に配慮し、円滑なチームワークの運営に努めています。また、本園と分園の連携が図れるよう尽力しています。さらに、毎月、法人系列園と合同で主任会や副主任・リーダー会を実施し、研修や情報交換を共有し、責任者としての育成を図っています。振り返りや話し合い、専門研修（相談援助、家族支援等）、地域の行事等に積極的に参加し、知識、指導力を備える経験を重ね、技量を高めています。

評価分類VI-3	効率的な運営
評価	

評価の理由（コメント）

●園の運営面における情報は、横浜市や港北区こども家庭支援課、港北区園長会、関連機関、マスメディア等から収集し、分析を行い、園運営に生かしています。また、法人の主任会や副主任・リーダー会で情報を共有し、課題により会議のレベルを柔軟に変更し、重要な課題については全職員に周知し、相談が必要な際は、職員会議で話し合い、園全体で取り組んでいます。業務改善提案書を職員から募集し、業務改善につなげ、より良い園作りに向けて取り組んでいます。

●法人本部では、「子育て支援・地域支援の向上により選ばれる保育園になる」という中長期的課題を掲げ、課題に向けて単年度ごとに細分化された目標を達成するよう取り組んでいます。次代の施設運営に備え、幹部職員は計画的に後継者を育成しています。外部の機関や専門家等からの意見については、日本幼児育成協議会に参画し、業界情報や子ども、子育て支援制度の動向等の情報を収集し、法人全体で取り組んでいます。また、外部講師を召喚し、「保護者支援のあるべき姿」に向けて研修を行っています。さらに、新保育所保育指針に沿い、子育て支援について広く意見を傾聴し、真意を汲み取り、園運営に反映するシステムを平成31年4月より本格的に始動する予定にしています。また、今後の人口動態による子どもの減少に伴い、対応方策も検討課題に挙げて取り組んでいきます。

平成 30 年度 福祉サービス第三者評価 本人（園児） 調査結果報告書

わおわお大倉山保育園

調査日程	平成 31 年 2 月 22 日・26 日
保育観察	保育園(本園及び分園)を調査員 2 名で視察、観察を行いました。22 日は、本園 (3 歳児～5 歳児) 朝の登園風景と 3 歳児の英語レッスン及び 3 歳児の散歩に同行して観察しました。26 日は乳児と一緒に食事をして観察しました。保育士のかかわり方、園児の様子観察を行い、子どもたちの過ごし方・保育の特徴を捉えて記しています。

■0 歳～5 歳の子どもの様子

<登園風景>

わおわお大倉山保育園の園舎は、本園が鉄筋コンクリート造り 4 階建ての 1 階部分を利用しています。分園は、鉄骨造り平屋建てでスーパーマーケットの敷地内にあります。調査者は、本園前の道路で登園してみえる子どもたちを観察しました。当日は、空には薄い雲がかかり肌寒い日ですが、心地よい風に包まれています。自転車に子どもを乗せてお父さんがみえました。「おはようございます」と挨拶を交わし、子どもは 6 歳と教えてくださったお父さんは子どもの手を取り、急いで玄関に入っていかれ、その足で都内にお仕事に向かわれるようで急いで引き返されていきました。お父さんがリュックを背負った子どもを自分の肩に載せて「オーオー」と声を出して急いで園舎に入っていけます。お母さんと子どもが手をつないで歩いてみえます。「おはようございます」と子どもとお母さんが挨拶され、子どもはニコニコしながら手を振ってくれました。車が少し離れた位置に停まると、車からお父さんと子どもが降り、急いで園舎に入っていかれ、車は家族の運転のようでお父さんを乗せてそのまま駅に向かって行きました。次に、ご夫婦で子どもと登園され、半そで半ズボンで「おはようございます、寒くない」と挨拶すると、「うん、寒くない」と元気に答え、それを笑顔で見守るご夫婦、子どもは元気良く園舎に入っていきました。鏝のついたカッコいい帽子をかぶった子どもとお父さん、片手をジャンパーのポケットに突っ込んで、片手をお母さんとつないで歩いて来る姿、また、お母さんと一緒に手をつないで登園してきた子どもは、「10 月 12 日にどんぐりをプランターに植えた」と指差して教えてくれ、その方向に行くと「どんぐり 10 月 12 日」と書かれた名札を立てたプランターが玄関脇にありました。子どもは笑顔で玄関に入っていきました。すると、自転車前で前に抱っこ、後ろに子どもを乗せて、「上の子どもを本園に預けて、下の子どもを分園に預けます」と言って園舎に入られ、直ぐに分園に向かわれました。8 時 50 分、調査者は本園の観察を終えて、分園の様子を見に行きましたが、分園では登園する子どもたちには会えませんでした。地域性もあるのか、落ち着いた保護者の方々が多く、子どもも素直で元気良く登園する姿を見ることができました。朝の観察では、園長先生より「第三者評価調査員」の腕章をいただきましたが、見知らぬ調査者が保護者の方に挨拶をし、不審に思われた方々へは深くお詫びいたします。

<英語の教室>

【3歳～5歳児】

英語は毎週火曜日と金曜日にレッスンを設け、今日は、9:50 分頃から 3 歳児がレッスンを受け、その後、4 歳児、5 歳児と続いて英語の日となります。4 歳児と 5 歳児は英語のレッスンまでの間、軽い散歩に出かけ、3 歳児が先に英語、その後お散歩の予定となります。英語のレッスンは 3 歳児を見学することにしました。朝の外国人の講師が大きな声で「Good morning」と園に入って来られました。レッスンは 5 歳児の保育室で行われ、子どもたちは若い外国人講師に懐いてとてうれしそうです。そんな子どもたちを「Sit down!!」と言って床に座らせ、「Stand up!!」と繰り返し、子どもたちを落ち着かせます。英語で言う行動するパターンの教え方でした。次に、One, two, three…の数、そして「pink」、「blue」、「green」等の色をネイティブの発音で子どもたちに伝え、手をつなぎ、並ぶ行動に入ります。「Make a line!」と講師が言うと、子どもたちはゆるやかになんとか並び、

子どもたちは「メイ、カ、ライン」と、言葉を音感で覚え、「Make a circle!」と言うと、子どもたちは手をつなぎ、つないだ手を大きくなったり小さくなったりしながら輪をつくります。「Make a line!」、「Make a circle!」と続き、みんなが並ぶと「Go to chair」の声で子どもたちは席に着きます。講師がタブレットを持ち出し、中には色々な絵が入っています。「What is this」と指をさすと、子どもたちは「I see a zebra.」、「I see a alligator.」と答えます。当たっていると「Good job!」と講師が大きく褒めます。最後はみんなで「10 人のインディアン」の歌を英語で歌います。「One little, two little, three little Indians.～Ten little Indian boys.」子どもたちは元気よく歌い、英語の音を感じて覚え、外国の文化に触れる等、将来への素地作りとして育んでいます。3 歳児はその後、散歩にでかけます。

<お散歩>

【3歳児】

3 歳児は英語のレッスンを終え、レッスンの見学から一緒にお散歩に同行することになりました。散歩先は「太尾公園」です。子どもたちは玄関前に集まり、保育士からお話を聞きますが、中々お話に集中できません。保育士は、お話を聞かせるために「みんな、自分のお話を聞いてくれないと悲しいでしょう?」、「先生も悲しいなあ～」と保育士が悲しそうな顔をし、だんだん子どもたちも静かになり話に耳を傾けます。静かになったところでお散歩での注意を始めます。「今日は、カバさん公園に行きます。公園には遊ぶ場所が大きく 2ヶ所あります。1つは、ブランコ、鉄棒、滑り台等があるところ、もう 1つは、ハシゴ、平均台、ジャングルジムのあるところ、どっちがいいですか?」と聞きます。「ブランコなどの方がいい人～」と子どもたちに拳手を求め、「ハシゴなどがあるところがいい人!」と聞くと、同じ子どもが何回か上げたり、手を上げない子が大部分ですが「ブランコが 4 人で、ハシゴが 2 人なので、ブランコのところにします」と決めて歩き始めます。公園まではそれなりに距離があり、住宅地の中の交差点では車が待ってくれ、保育士が会釈をして子どもたちは手を上げて渡ります。安全な道中を進むと公園に到着しました。カバさん公園は、鶴見川沿いの浄水場に隣接する高台にあり、浄水場は広いスペースで濾過用の貯水槽と

浄化用のタービン等の装置が設置されている建物があります。この浄水場を見下ろす高台に「カバさん」がいる公園があります。

公園は、高台なので舗装された坂のスロープを登って入り口に向かいます。子どもたちが「走りたい」と言いだし、この公園への恒例でしょうか、坂の中間地点に当たるスロープ躯体接合鉄板の所まで登り、そこで、「ヨーイ、ドン！」と走るようになりました。この地点をスタートラインとして子どもたちが並びます。担任の保育士は「先にゴールに行くからそれからヨーイ、ドンしてね」と言い、保育士は荷物、水筒等を持って先に坂を駆け上がります。見ていると、若さと元気さ！そして決断力のある素晴らしい保育士です。保育士はゴールに近いところに立ち、「それでは位置について～！」と言うと、スタート地点ではもう1人の保育士が子どもたちを見守り、「〇〇ちゃん、出ちゃダメよ」と言いながら鉄板のスタートラインに戻します。坂の上から担任の保育士が「ヨ～イドン!!」と勢い良く号令すると、みんな一斉にゴールを目指して駆け上がります。速い！速い！調査者はとてもついていけないので歩きながら上まで登りました。坂の上が公園の入り口となり、公園は中央に広い野球もできるグラウンドがあり、その周囲が公園になっています。周囲の公園は大きく2つのゾーンに分かれており、1つは子どもの遊びゾーン、もう1つは大人が体力作りできるアスレチック固定具等があるゾーンになっています。グラウンドの周囲は周回のランニングロードが設備され、所々には距離表示がされています。50m間隔で1周400mあり、競技場のトラックとほぼ同じ距離で子どもたちが走るにはとても良い環境です。園を出る時に約束したブランコ、すべり台等があるところの公園に着きました。既に3～4園位の子もたちが来ていて遊んでいました。担任の保育士ともう1人の保育士と相談の上、もう一方のハシゴのある方へ移動することに決めました。保育士は園を出る前に行き先の場所を約束したので、きちんと子どもに断りを入れます。「ここの公園は今、たくさんのお友だちが来ていて遊べると思う？」と子どもたちに聞きます。すると子どもたちは頭を横に振り、「それでは、ハシゴのある方へ行ってみる？」と聞き、子どもたちが納得してから移動しました。子どもたちは「走って行きたい」と言い、周囲の大人の人、お散歩している人等を配慮し、保育士は「ヨーイ、ドンはするけれど、人がいて危ないので人を避けてゆっくり走って向こうへ行きましょう」と注意を促しますが、子どもたちは元気に走ります。走れない子どもには保育士と調査者の4人で足早で歩きながら反対側の公園に向い、到着した公園には大人用の体力作りのアスレチック等が設備され離れた場所にジャングルジムがありますが、先着で他の園児たちが遊んでいました。わおわお大倉山保育園の子どもたちは木の下で一旦、水分補給をした後、自由遊びをすることにしました。子どもたちは、フェンス越しに野球場を見ている子どもや、木の根っこを引っ張って「カブトムシいる？」と探す子ども、平均台を歩く子ども、垂直ハシゴに登る子ども等、設備された器具や自然等で遊びを見つけて思い思いに遊び、中での垂直ハシゴに人気があり、大人の幅で10数段の横棒があり、1段から2段、2段から3段へと、子どもの足でも跨げる幅なので楽しんで登っています。1番上の棒に手が届き、1番高く登った子どもに「すごいね～！」と保育士が褒めます。すると、先ほど走れなかった子どもが「登ってみたい」と言い、その子どもにとって初めての意欲への瞬間に保育士は「〇〇ちゃんに登らせてあげよう！」と先に登らせるよう子どもたちに言い、上の棒に掴まって、初めて1段、その後やっと2段に登ることができました。「〇〇ちゃんすごい～!!」と保育士が褒めます。その子どももとても得意気な顔で満足な様子でした。時計を見ると「食事の時間間に合わない」と、急いで集合をかけ、人数を数えて結構足早で園に戻りました。担任の保育士の機敏な

行動力やバイタリティーに脱帽し、その若さ故の子どもたちとの距離感や信頼関係が構築されており、楽しいクラスとのお散歩でした。

<食事>

【0歳児～2歳児】

調査日1日目では、2名の調査者が本園で4歳児と5歳児のクラスで食事を一緒に行い、2日目は分園で0歳～2歳児の食事風景を見学しました。食事は、0歳児が専用保育室と前室、1歳児はその隣室、2歳児は玄関口の大きい部屋で食事をを行います。専用の厨房で調理スタッフが本園共に昼の給食を担当しています。年齢別に時差を持ちながら提供を行い、先ず0歳児から食事をスタートし、順に1歳児、2歳児と配膳を進めます。訪問では、0歳児は既に半分ぐらい食事が進んでおり、1歳児は食べ始めるところで、2歳児は保育室の端で絵本を読んでもらい食事を待っています。1歳児の食事場所で絵本を読んでもらっていた2歳児の子どもが調査者の足にしがみついてきました。「なあ～に？」と声をかけると、遊ぼうよ、というポーズのようです。2歳児の部屋に戻って自分の席に着き、食事を始めました。すると食事中も時々背中をつついて何か言ってきます。普段見慣れない大人でまた、おじいさんに興味を持ったのか、とても人懐っこい子どもで、興味深く接してきていました。

0歳児は、専用の個室と前室で寝食を分け、食事では1つのテーブルに子ども3人に保育士が付き、2つのテーブルで食事を取り、保育士が子どものペースに合わせて口に運び、子どもたちはしっかり食べていました。1歳児の食事では、ハヤシライスで0歳児と同じ食事形態でしたが、ハヤシライスの色が少し薄めを感じましたが、理由があるのか聞くチャンスを逃しました。食事は、4人が1つのテーブルに着席し、1つのテーブルに保育士が1名付き、援助をしています。今日のメニューはハヤシライス、ブロッコリーのスープ、菜っ葉のお浸し、フルーツポンチで、子どもたちは自分でスプーンを持って個々のペースで食事をし、フルーツポンチが気になるようで1つの果物を食べては、ご飯を食べる等、自由に好きなものを口にしながら食べています、

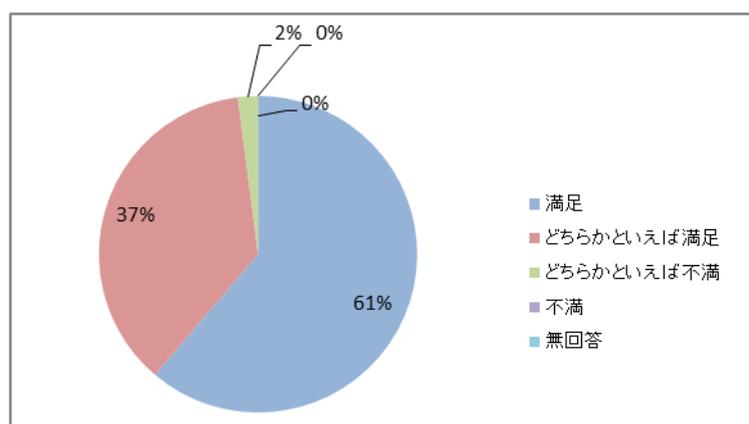
2歳児は2つの大きなテーブルに8人ずつ席に着き、各テーブルの中に保育士が入り、調査者2名も同席させていただきました。食事ではフルーツポンチが1番先に無くなくなり、次いでハヤシライス、3番目にブロッコリーとコーンのスープで、菜っ葉のお浸しは残している子どもも見られましたが、みんな思い思いに楽しく美味しく食事をしています。おいしい食事をいただき、本園に戻り際には「帰るの？」という声も聞かれ、突然の訪問に子どもたちは不思議そうでしたが保育士のフォローをいただきながら子どもたちの楽しい食事風景に触れることができました。

【 わおおお大倉山保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	平成 30 年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	利用者家族 配付世帯数（世帯数 69 ）
有効回答数	49 世帯
世帯総数に対する回答者割合（%）	71%

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
6 世帯	7 世帯	11 世帯	9 世帯	10 世帯	6 世帯

* 回答があった利用者満足度の内訳（%）



●利用者アンケートの特徴として、『満足』と『どちらかといえば満足』を合わせて（以下、「ほぼ満足」という）を見ると、全ての項目に対して「ほぼ満足」は 56%以上を示しています。特に、『満足』での高い項目では、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」についてであり、『満足』は 71%を得ています。また、60%以上の『満足』を示している項目は、「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動」について（67%）、「遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分持てている」かについて（65%）、「給食の献立内容」について（63%）、「お子さんが給食を楽しんでいる」かについて（61%）が挙げられます。「ほぼ満足」での高い項目では、『満足』でも高い%を示していた、お子さんが給食を楽しんでいるかについても満足 61%、どちらかといえば満足 35%、どちらかといえば不満 0%であり、ほぼ満足は 96%となっています。また、「費用やきまりに関する説明について（入園後に食い違いがなかったかを含めて）」については、満足 51%、どちらかといえば満足 47%、どちらかといえば不満 0%にて、ほぼ満足は 98%を得ています。「お子さんが保育園生活を楽しんでいる」かについては、満足 71%、どちらかといえば満足 24%、どちらかといえば不満 2%にて、ほぼ満足は 95%を得、「自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動について」は、満足 67%、どちらかといえば満足 27%、どちらかといえば不満 6%であり、ほぼ満足は 94%を示しています。

●アンケートの自由記述からは、各年齢の保護者から「どの先生（保育士）もきめ細やかに対応してくれてありがたい」、「子どもたちがのびのび成長してくれるようにサポートしてくれているので要望はない」、「子どもをきちんと見てくれている」、「見ようという姿勢を感じるので、基本的に満足している」、「こちらの要望にも多少無理を言っているような時にも対応してもらえて感謝している」、「感染症の情報の細かい開示がされていたり、地域への交流が増えていたり、日々改善への取り組みがされているなど感じる」、「保育園の基本理念や方針は素晴らしく、とても共感している」、「行事も多く、先生（保育士）方も私たち親の悩み事などありそうなら親身に対応してくれてる」、「子どもの様子の細かいところまで気にして見ている」、「保護者としては本当に有難く、感謝している」、「いつでもすぐに話することができる雰囲気なので、安心して預けている」、「子どもたちの作品や遊びについても年齢に応じてとても良く考えてくれ、色々なことがすんなりとできるようになっている」、「園の建物が2つに分かれているので先生（保育士）方は年中行き来をしていて大変そうですが、それぞれに特別感が出て、子どもたちは普段通っていない園舎へ行くのを楽しみにしている」、「全ての項目で満足につけた」、「保育士の方に毎日たくさん遊んでもらい、いつもニコニコで登園できている」等、多くの喜びと感謝の意見が挙がっています。「保育園は明るい良い園であり、わおわお大倉山保育園に子どもを預けられて本当に良かった」、「お仕事内容が大変きめ細かいので、何かお手伝いできることがあれば手伝いたい」という声もいただいています。

●『不満』および、『満足』が低い項目では、「施設設備について」が挙げられ、満足 20%、どちらかといえば満足 47%、どちらかといえば不満 22%、不満 8%、その他 2%であり、『満足』に関しては低い数値が目立ちます。また、「外部からの不審者侵入を防ぐ対策について」では、満足 24%、どちらかといえば満足 57%、どちらかといえば不満 14%、不満 4%、その他 0%であり、「お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているかについて」は、満足 29%、どちらかといえば満足 57%、どちらかといえば不満 12%、不満 2%、その他 0%という結果になっています。

●アンケートの意見では、友達とのトラブルでのケガについて、ケガをした親だけではなく相手の親にも伝えてほしい、給食をもう少し増やしてほしい、外部からの不審者侵入対策についての意見や、施設設備における要望、送迎時での子どもについての連絡方法、情報交換に関する意見等、比較的多く挙がっています。それぞれに関しては園から説明、周知されていると思いますが、保護者からの意見、要望等について受け止め、利用者の理解や協力につなげられるよう、日々の振り返りと見直しを図る機会を設け、園の良い点を生かし、継続してより良い園作りへの取り組みを期待いたしております。

●保育園の基本理念や基本方針については、よく知っているが 31%、まあ知っている 59%、どちらともいえない 6%、あまり知らない 4%、まったく知らない 0%という結果になっています。しかし、それらの賛同については、賛同できる 63%、まあ賛同できる 27%、どちらともいえない 0%、無回答 10%にて、90%がほぼ賛同を示しています。保育の根幹なる保育方針、保育目標は機会あるごとに周知を図っていますが、より一層の周知・理解を促す工夫が期待されます。

●総合的に、『満足』は61%の支持を頂き、『どちらかといえば満足』は37%、『どちらかといえば不満』2%、『不満』0%、『無回答』0%にて、サービスの提供について、98%が「ほぼ満足」していると捉えることができます。

利用者調査項目（アンケート）

わいわお大倉山保育園

【保育園の基本理念や基本方針について】

※上段%、下段人数で示しています

問 1

利用者調査項目		よく知って いる	まあ知っ ている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答
1	あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	31%	59%	6%	4%	0%	0%
		15人	29人	3人	2人	0人	0人
2	あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	賛同できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同でき ない	無回答
		63%	27%	0%	0%	0%	10%
		31人	13人	0人	0人	0人	5人

【保育園のサービス内容について】

問 2 入園する時の状況について

		満足	どちらか といえば満足	どちらか といえば不満	不満	その他	無回答
3	見学の受け入れについては	53%	24%	0%	0%	20%	2%
		26人	12人	0人	0人	10人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・見学していない。（4） ・姉が通っており、見学は希望しなかった。 ・諸事情があり、見学していない。 ・2人目の為、見学はしなかった。 ・私自身は見学をしていないが、よく見学しに来ている人を見るので積極的だと思います。 ・先生により、受け入れを書き物をしながらだったりするのがある。 ・見学せずに入園した。 					
4	入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	49%	37%	4%	0%	10%	0%
		24人	18人	2人	0人	5人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・姉が通っており、見学を希望しなかった。 					

5	園の目標や方針についての説明には	51%	41%	0%	2%	6%	0%
		25人	20人	0人	1人	3人	0人
《その他意見》		・上の子がいるので親も知っていた。					
6	入園時の面接などで、お子さんの様子や育成歴などを聞く対応については	61%	33%	4%	0%	2%	0%
		30人	16人	2人	0人	1人	0人
《その他意見》		・アレルギー対応について。					
7	保育園での1日の過ごし方についての説明には	45%	47%	6%	0%	2%	0%
		22人	23人	3人	0人	1人	0人
《その他意見》							
8	費用やきまりに関する説明については（入園後に食い違いがなかったかを含めて）	51%	47%	0%	0%	2%	0%
		25人	23人	0人	0人	1人	0人
《その他意見》							

問3 保育園に関する年間の計画について

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
9	年間の保育や行事についての説明は	41%	55%	4%	0%	0%	0%
		20人	27人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》							
10	年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	35%	53%	10%	2%	0%	0%
		17人	26人	5人	1人	0人	0人
《その他意見》							

問 4 日常の保育内容について

「遊び」について

		満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
11	クラスの活動や遊びについては (お子様が満足しているかどうか)	55%	39%	4%	2%	0%	0%
		27人	19人	2人	1人	0人	0人
《その他意見》							
12	子どもが戸外遊びを十分しているかについては	57%	33%	10%	0%	0%	0%
		28人	16人	5人	0人	0人	0人
《その他意見》							
13	園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に 使えるように置いてある、年齢にふさわしいかなど)	51%	45%	4%	0%	0%	0%
		25人	22人	2人	0人	0人	0人
《その他意見》							
14	自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動に ついては	67%	27%	6%	0%	0%	0%
		33人	13人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》							
15	遊びを通じた友だちや保育者との関わりが十分もて ているかについては	65%	29%	6%	0%	0%	0%
		32人	14人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》							
16	遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みにつ いては	51%	41%	8%	0%	0%	0%
		25人	20人	4人	0人	0人	0人
《その他意見》							

「生活」について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
17	給食の献立内容については	63%	31%	6%	0%	0%	0%
		31人	15人	3人	0人	0人	0人
	《その他意見》						
18	お子さんが給食を楽しんでいるかについては	61%	35%	0%	0%	4%	0%
		30人	17人	0人	0人	2人	0人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・量が足りない。 ・家族だと食べずにいる食材も、園では頑張って食べていて親としてはありがたいですが、本人は少し苦手意識があるようです。 					
19	基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	71%	22%	6%	0%	0%	0%
		35人	11人	3人	0人	0人	0人
	《その他意見》						
20	昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	57%	33%	10%	0%	0%	0%
		28人	16人	5人	0人	0人	0人
	《その他意見》						
21	おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	59%	33%	0%	0%	8%	0%
		29人	16人	0人	0人	4人	0人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・まだしていない。 ・園でどれくらい進んでいるかわからない。 ・途中入園で該当せず。 ・おむつはずしがどうなされているかわからない為。 					
22	お子さんの体調への気配りについては	61%	35%	4%	0%	0%	0%
		30人	17人	2人	0人	0人	0人
	《その他意見》						
23	保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	53%	29%	4%	10%	2%	2%
		26人	14人	2人	5人	1人	1人
	《その他意見》	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちとのトラブルでのケガについて、ケガをした親だけではなく、相手の親にも伝えてほしいと思う。 					

問5 保育園の快適さや安全対策については

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
24	施設設備については	20%	47%	22%	8%	2%	0%
		10人	23人	11人	4人	1人	0人
《その他意見》		・教室が狭い。 ・0歳児クラスが異常に狭く、成長が早い子はかなり可哀想です。					
25	お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているかについては	29%	57%	12%	2%	0%	0%
		14人	28人	6人	1人	0人	0人
《その他意見》							
26	外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	24%	57%	14%	4%	0%	0%
		12人	28人	7人	2人	0人	0人
《その他意見》		・門の施錠が徹底されていない。					
27	感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	47%	31%	16%	6%	0%	0%
		23人	15人	8人	3人	0人	0人
《その他意見》							

問6 園と保護者との連携・交流について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
28	保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	47%	49%	2%	0%	0%	2%
		23人	24人	1人	0人	0人	1人
《その他意見》							
29	園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	57%	39%	2%	0%	0%	2%
		28人	19人	1人	0人	0人	1人
《その他意見》							

30	園の行事の開催日や時間帯への配慮については	59%	31%	6%	2%	0%	2%
		29人	15人	3人	1人	0人	1人
《その他意見》							
31	送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	31%	39%	22%	2%	2%	4%
		15人	19人	11人	1人	1人	2人
《その他意見》		・できれば担任の先生から聞きたい。					
32	お子さんのに関する重要な情報の連絡体制については	47%	35%	10%	2%	2%	4%
		423	17人	5人	1人	1人	2人
《その他意見》		・担任の先生であれば問題ないかと思う。					
33	保護者からの相談事への対応には	45%	43%	10%	0%	0%	2%
		22人	21人	5人	0人	0人	1人
《その他意見》							
34	開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	61%	35%	0%	2%	0%	2%
		30人	17人	0人	1人	0人	1人
《その他意見》							

問7 職員の対応について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
35	あなたのお子さんは大切にされているかについては	67%	22%	6%	0%	2%	2%
		33人	11人	3人	0人	1人	1人
《その他意見》		・先生によります。					
36	あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	71%	24%	2%	0%	0%	2%
		35人	12人	1人	0人	0人	1人
《その他意見》							

37	アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	57%	20%	2%	0%	14%	6%
		28人	10人	1人	0人	7人	3人
《その他意見》		・今のところアレルギー・障害がないのでわからない。 ・よく知らない。 ・該当しないのでわからない。(5)					
38	話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	59%	29%	6%	4%	0%	2%
		29人	14人	3人	2人	0人	1人
《その他意見》							
39	意見や要望への対応については	47%	39%	10%	2%	0%	2%
		23人	19人	5人	1人	0人	1人
《その他意見》							

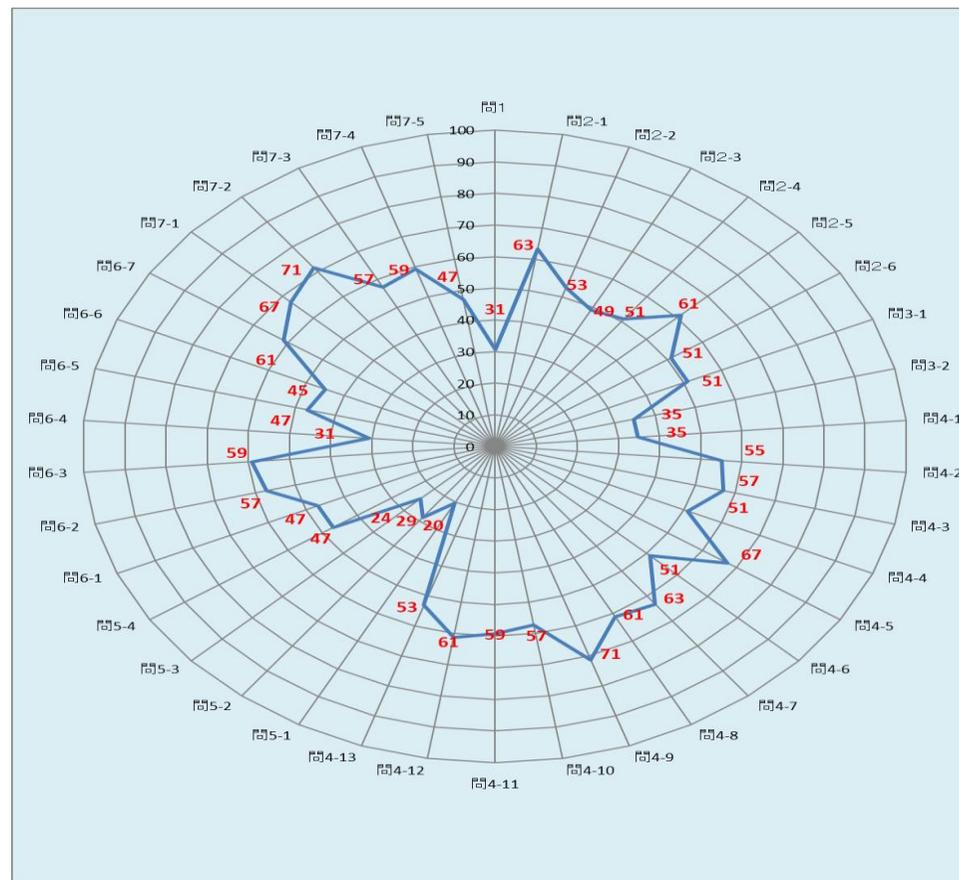
問8 保育園の総合評価

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
40	総合満足度は	61%	37%	2%	0%	0%
		30人	18人	1人	0人	0人
《その他意見》						

利用者家族アンケート調査結果（設問別「満足度」総合）

（注）レーダー数値は設問別「満足度」回答率（小数点以下は四捨五入）

調査対象園舎： わおわお大倉山保育園	横浜市港北区大倉山 5-7-2
回答世帯数：69 世帯中 49 世帯 <0 歳児（6 名）、1 歳児（7 名）、2 歳児（11 名）、3 歳児（9 名）、4 歳児（10 名）、5 歳児（6 名）>	
定員：76 名	回収率：71%
調査期間： 2018/11/5～2019/2/26	



事業者コメント

施設名： わおわお大倉山保育園

園長： 吉村 実和子

<評価に取り組んだ感想>

職員全員で一項目ずつ園の評価に取り組んだ事で、現状できていることや園にとって不足していることが明確になり、今後どうしていくべきかを考えることができた。また、園をより良くしていくことへの意識が高まった。

保護者からの評価は、職員にとって保育を改めて見直す良いきっかけとなった。真摯に受け止め、思いに応え信頼関係を築くための行動に結びつける事ができた。

保護者の皆様には、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

<評価後取り組んだ事として>

1. 保護者対応の見直し・改善（登降園時・保育参加等）
2. 施設内外の安全対策の強化（事故対策・園外保育等）
3. 子どもの気持ちにより目を向け、保育の質を高める（安心できる声掛けや興味に合わせた環境設定等）